

原作用脚色者 帝キネ
 監督者 鈴木史郎
 撮影者 長尾史郎
 立花也
 主要役割
 仙田孫兵衛 片桐恒男
 渡邊四角 喜多見順男
 或る南國の城主 實川延太郎
 家老橋門記 市川老三郎
 久留段之進 中川獅子平
 狼と呼ばれる男 藤村海歌
 門記の息宗之助 山田義之助
 居酒屋の女お妻 同
 門記の娘みどり 同
 同じ棟に住む人 同



寫 眞
 「寶劍」帝キネ長尾史郎作品。
 右より片桐恒男と都さくら。

斬られる町人 富樫明多石門
 旦那風の男 嵐廣次
 寶刀を盗む腰元 寺川陽子
 居酒屋の女中 歌美陽子
 同 千曲しのぶ

解説—長尾史郎氏の「赤箱の仁三郎」に次ぐ作品である。

略筋—世は泰平、浪人者は惨めな退富な日を送つてゐた。その中の一人仙田孫兵衛は居酒屋の女お妻を思つてゐたが、金のない人は嫌ひだと断はられた。親友の渡邊四角が同情してお妻を奪はんとする。お妻は實は孫兵衛を慕つてゐる。お妻の返事、喜んだ孫兵衛はお妻がある男を殺して呉れと頼まれその男の家を訪れた。男はある南國に家老職を勤めてゐた種門記といふ者。お家の重寶、蛟龍丸紛失のためお暇となり、お家久留段之進を尋ねて貧病に苦しむつたり、お妻の隠れ家である。お妻は孫兵衛は四角と共に宗之助と共に生きてゐるのであつた。段之進は彼等の隠れ家を襲ひ、内記の娘を助け寶劍を奪ひ返した。しかし娘は傷いてお妻は孫兵衛はお妻を殺し内記親子を喜ばせてやつた。お妻は退富な事を忘れる事が出来た。